

今回は自家発電について紹介します。

東日本大震災によって生じた計画停電により、自分たちの生活において、いかに電力が欠かせないものなのかを改めて考えさせられました。最近では、節電に加えて会社や家庭で電気を作り、蓄えておくことの出来る自家発電が注目されています。

では、緊急時に自家発電をするにはどのような準備が必要なのか？いざという時に役立つ発電機、太陽光発電、蓄電池(バッテリー)などどんな場面・環境で利用するのが適しているかなどの情報を紹介していきます。

停電や緊急事態に自家発電をするための装置は、大きく分けて4つのタイプに分類できます。

代表的な4つの発電システム



手動式発電機



エンジン式発電機



太陽光発電システム



蓄電池付
太陽光発電システム

発電機の種類	発電方法と特徴	価格
手動式発電機	手や足でハンドルを回すことで発電が出来ます。発電量が少なく、家電などの電力を補うには力不足ですが、ラジオや懐中電灯等で使用するには十分な機能です。	¥960～12,500
エンジン式発電機	ガソリンなどを使って発電し、発電量500W以上のものが多いです。ガソリンが不足すると使用が出来ません。ガソリンのにおいと騒音が出るので室内での使用には向きません。	¥1,440～400,000
太陽光発電システム	屋根の上にソーラーパネルを乗せる本格的な太陽光発電システムです。蓄電機能をもたないものがほとんどなので、太陽が出ていないときは使えなくなります。	《太陽電池と周辺機器》 1.08KW ⇒ 100万円～ 2.93KW ⇒ 200万円～ 4.06KW ⇒ 300万円～
蓄電池付 太陽光発電システム	コンパクトなサイズで場所を選ばず、太陽が出ているときに発電した電気を貯めておいて緊急時に使用することが出来ます。持ち運びも出来ます。	¥400,000～ メーカーによっては ¥248,000～

(参考: 2011 停電時の自家発電を考えるサイト)

このように利用目的や使用する環境により、選ぶべき発電機は違います。

短時間停電時に使う家庭の非常用としては手動式発電機が一番良いのかもしれませんが

